23I-am11

慶應義塾大学公開講座「指導薬剤師のためのワークショップ〜薬局 - 病院 - 大学間の連携を考える」の成果と 2019 年度実務実習説明会での新企画に関する報告

○中村 智徳[1], 地引 綾[1], 鈴木 小夜[1], 横山 雄太[1], 岩田 紘樹[1,2], 河添 仁[1], 小林 典子[1], 藤本 和子[1], 山浦 克典[1,2]（[1]慶應大薬 , [2]慶應大薬・薬局）

【目的】改訂コアカリに準拠した実務実習に向けて、本学では指導薬剤師と教員とが一堂に会するワークショップ（WS）を 2016 年度より開催し、2018 年度 WS では概略評価に焦点を当てて実施した。その開催報告に加えて、2019 年度実務実習報告会で取り入れる、薬局–病院–大学間の連携での新たな試みについても報告する。
【方法】2018 年 9 月 9 日、慶應義塾大学薬学部にて、薬局・病院の指導薬剤師および本学教員合計 49 人により WS を行い、概略評価の効果的な活用方法に関するアイデアを抽出した。ワールドカフェ形式のグループワークでは 3〜4 人ずつ 13 テーブルの構成とし、2 ラウンド各 15 分間の討論を行った。各ラウンドのテーマはそれぞれ「概略評価を実施してどうだったか／どう感じたか」および「概略評価で困った点／不安な点」とした。つづいて、7 人ずつ 7 グループを構成し、「学生の成長につながる概略評価の活用方法とは」について討議を行い、討議内容を発表して情報共有した。
【結果・考察】WS では、I 期先行導入実習での概略評価の経験を踏まえた情報交換および討議が行われ、概略評価の原則である、指導者と学生とが評価基準を確認しながら複数回評価を行うことで、学生の実習に対する自覚が生まれやすく、モチベーションの維持に有効であるとの意見や、薬局・病院間で連携して学生の成長過程を継続的に評価することなどが提案された。さらに 2019 年 1 月 27 日（日）に開催予定の 2019 度実務実習説明会では、過去 3 年間の WS で得られた、「薬局・病院・大学間の情報共有・意見交換を目的とする三薬担当者交流会」の開催要望を反映して、施設の取り組み紹介やカフェ形式の薬局・病院・大学の 3 者懇談会を実施予定であり、この結果報告も行う。